

平成28年度 第4回マージン検討会 議事録

日 時 平成29年3月24日（金） 14:20～14:45

場 所 電力広域的運営推進機関（豊洲ビル）ミーティングルームC（TV会議）

出席者：

坂原 淳史（北海道電力株式会社 流通本部工務部広域システムグループリーダー）  
高橋 英人（東北電力株式会社 電力ネットワーク本部電力システム部給電グループ課長）  
田中 泰生（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループマネージャー）  
佐藤 幸生（中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー系統運用部給電計画グループ課長）  
川島 渉（北陸電力株式会社 電力流通部系統運用チーム統括課長）  
中瀬 達也（関西電力株式会社 電力流通事業本部給電計画グループチーフマネージャー）  
柴田 保（中国電力株式会社 流通事業本部系統技術グループマネージャー）  
長谷川 隆（四国電力株式会社 電力輸送本部系統運用部給電グループリーダー）  
深川 文博（九州電力株式会社 電力輸送本部副部長兼給電計画グループ長）

事務局

大川 修司（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループマネージャー）  
吉田 重宏（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）  
吉田 脩人（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

配布資料

（資料1）東北東京間連系線マージンの設定等に関わる今後の運用について

議題1：東北東京間連系線の連系線潮流抑制のマージンの設定等に関わる今後の運用について  
事務局から資料1を説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：東北東京間連系線（東京向き）の連系線潮流抑制のためのマージンについては、4月1日分から、翌々日の空容量の算出・公表時に原則開放とするが、雷・台風・暴風雪等の予見可能なリスクが高まっていると判断した場合はマージンを設定する運用を開始する予定である。  
マージン要否の判断については、気象庁が発表する「暴風域に入る確率」、「気象情報」、「警報・注意報」を用いることにより、透明性を確保する。  
台風については前々日に「暴風域に入る確率」を確認し、暴風域に入る確率がある場合は、翌々日のマージンは開放しないこととする。また、暴風域に入る確率がない場合は翌々日のマージンを開放するが、急な進路変更や速度変化等の可能性もあるため、「暴風域に入る確率」の続報を確認し、必要

に応じて空容量の範囲内でマージンを再設定する。

暴風雪については、前々日 10 時 30 分時点で「暴風・暴風雪・大雪・風雪・低気圧・強い冬型の気圧配置」に該当する気象情報が発表されていれば、翌々日のマージンは開放しないこととする。また、該当する気象情報が発表されていない場合は翌々日のマージンを開放するが、それ以降に気象情報または警報・注意報が発表された場合は空容量の範囲内でマージンを再設定する。

- ：なお、本資料については当機関HPでのお知らせ文に掲載予定の内容となる。
  
- ：台風については「暴風域に入る確率」を確認するとのことだが、具体的にはどのような情報が発表されるのか。
- ：72 時間以内に台風の暴風域に入る確率が 0.5%以上ある地域に対して、72 時間先までの 3 時間毎の確率が気象庁から発表される。台風に対するマージン設定については、最終的に前日 21 時の観測情報に基づき設定期間を変更する運用を考えている。
  
- ：判断基準や対応フローについては、広域機関と関係一般送配電事業者で実務者意見も踏まえ検討を行ってきたものであるが、毎年ローリングし、必要に応じ見直していく予定である。
- ：業務効率面も考慮した対応フローを広域機関と関係一般送配電事業者で検討してきたが、今後、実務を通じて顕在化する課題等もあると思うので、必要に応じ見直しの提案をさせていただきたい。
- ：承知した。

<その他>

- ：長期計画（平成 31 年度～38 年度）における電力市場取引環境整備のマージンの値については、今後、値が算出された時点で検討会メンバーに確認頂くこととしたい。

以 上